

アフナンさんと私

(温厚な人)

グループ番号 F 名取優徳 (なとりまさのり)

1. アフナンさんの印象

私が初めてアフナンさんと会ったのは、2回目の授業のときでした。そのとき持った第一印象は“温厚な人”でした。そして容姿から判断して分かるように、彼はイスラム圏の人でした。私が秋田大学に入学して初めて交流するイスラム圏の留学生だったので、とても楽しみでもあり、少し不安もありました。でも話してみると、私がイスラム圏の人たちに持っていた固定観念とは全く異なっていて、とても落ち着いている人であることがわかりました。また、共通の趣味として、お互いサッカーがすごく大好きであることがわかったので、サッカーをはじめとしていろいろなことについて話していきたいと考えています。

また、アフナンさんの時折見せる優しい一面が私は好きです。私は授業を通して多くの留学生と仲良くなるのですが、授業外で会った時にもきちんと挨拶してくれるのはアフナンさんくらいではないかと思います。散歩に行ったときも、車が来ていることの注意を喚起したり、積極的に場を盛り上げようとしてくれたりと、彼の優しさに触れることができました。

授業の時、話し合いが進まず場が凍っているときにも、頑張って話を展開しようとしてくれるので、頼りになる一方で見習わないといけないとも思います。

これからたくさん話していき、アフナンさんがどういう人で、どんな考え方を持っているかなど、彼のいろいろなことについて理解を深めていきたいと考えています。

2. 特に聞きたいテーマ：スポーツ

自己紹介やこの前の話し合いのときにも知ることができたのですが、アフナンさんは体を動かすことが大好きで、いろいろなスポーツに興味があるそうです。特に、サッカーとバスケットボールについては実際に経験があるそうです。そしてなぜアフナンさんに聞いてみたいテーマを「スポーツ」にしたかという、私も体を動かすことが好きで、そのことについていろいろ共感できる部分があると思ったからです。また、これについて調べれば、彼の考え方や価値観、経験などについても、広く知ることができると考えたのでこのテーマにしました。

3. 話し合いの結果

1 6月6日の話し合い

この日に初めてアフナンさんと1対1で話し合いをしました。テーマがスポーツのことだったのでバスケットとサッカーのを中心にインタビューしていき、そこからアフナンさんがどんな人なのか知ろうと考えました。この日は、一般教育1号館1階のソファに座って、割りと静かな落ち着いた雰囲気の中でインタビューしました。

アフナンさんは、高校のときにバスケットボール部に所属していました。チームの中でもうまい方で、他のチームメイトを引っ張る存在でした。サッカーについては、チームに所属していたわけではなく、友達と遊ぶ程度だったそうなのですが、周りの友人たちと比べると少し劣っている部分があり積極的になれなかったみたいです。

私が持った第一印象である「温厚な人」というのは、半分当てはまり、半分間違っていました。普段友人たちという時は、比較的活発で積極的に場を盛り上げたり、バカやったりするそうです。バスケットボールをしている時はいい例だと思います。逆に自分の苦手なことや他よりも劣っている時には少し引っ込み思案になり、劣等感を感じることもさえるそうです。例えば、サッカーをしている時、あと私は全く感じないのですが、日本語でうまく話せない時などに周りよりも劣っていると感じるそうです。

しかしそのようなことは、自分にもたくさんあります。中学生のころに所属していたサッカーチームではなかなか出場機会を与えてもらえず、強い劣等感を感じたこともありました。しかし高校生になり、チームの中でも周りを引っ張っていかないといけない存在になったときには、劣等感ではなく責任感を感じるようになりました。また私の場合、英語で全然会話することができないときなどに劣等感を感じます。

この内容から、アフナンさんの中でのバスケットの位置づけは、私の中の高校時代のサッカーに相当し、彼の中のサッカーや日本語の位置づけは、私の中の中学時代のサッカーや英語であることがわかりました。

バスケットは高校の時から始めたそうです。寮に住んでいたため、練習はほぼ毎日あったそうです。ポジションはポイントガードをやっていて周りの選手を活かすプレーが好きみたいです。また誰か尊敬できる人はいるかどうか尋ねると、バスケットボール部のキャプテンはとても尊敬できる人だと答えてくれました。理由を聞くと、「まず単純にバスケットのスキルが高い。でもそれだけではなく、キャプテンだからと言って天狗になることなく他の友達にもとても優しいし温かい人なんだ。」とっていました。小学校以前からの付き合いだそうです。

サッカーはプレーするだけではなく見るのも好きと聞いていたので、どこのチームが好きか聞いてみました。するとプレミアリーグの「アーセナル」が好きと言いました。私は意外だと思いました。なぜなら大概の人は「バルセロナ」や「レアル・マドリード」などの強豪チームを答えるからです。なぜそういった有名どころではなく「アーセナル」なのか尋ねると、「サッカーのゲームでチーム選択をするときに一番最初に出てくるのがアーセナルで、いつも使っていたら好きになった。」とっていました。理由が面白かったので思わず笑ってしまいました。

アフナンさんは、話をしているときにはとても真剣に聞いたり話してくれたりしていました。で

もサッカーゲーム(ウイニングイレブン)の話で盛り上がったときにはとても興奮していた気がします。

2 6月20日の話し合い

この日の話し合いは教室の中で話し合いました。周りにも人がいたせいなのですが、少し騒がしい雰囲気の中での話し合いでした。話し方や表情もいつも通りのアフナンさんでした。

この日に初めて知ったのですが、アフナンさんは今趣味としてギターに熱中しているそうです。そのギターは先輩からもらったそうなのですが、週末になるとよく同じマレーシアからの留学生たちと一緒に練習するそうです。手を見せてもらったのですが、ギターの弦でついた跡や傷があって、とても熱中しているというか、本気でギターが好きなんだと感じました。これは運動好きのアフナンさんにとっては意外な一面なのかもしれません。

4. まとめ

アフナンさんにとってスポーツはかけがえのない存在であり、今の彼の性格や人柄を形成してきたものであると思う。サッカーだけでなくバスケの時もそうだが、他人に迷惑をかけずに、自分の役割を全うすることを大切にしているそうです。こういった考え方は普段のアフナンさんにも合致していると思う。私が最初に彼にもった印象は“温厚”でしたが、温厚なだけでなく、まわりに気配りができることなどから、他人のことを思いやる気持ちもしっかり持っていることが分かった。

一つ一つの質問にも嫌な顔一つ見せずに答えてくれてとても居心地がよかった。そしていろいろ細かな話までしてくれて嬉しかった。

ギターは遠慮してしまうかもしれないが、今後サッカーやバスケなど一緒に遊びながらプレーしていく中で、お互いの語学力を高めてもいきたいと考えている。

5. 授業を終えて

1 文化、コミュニケーションとは何か

私はこのクラスで“文化”とは、その国の人それぞれが持っている特定の習慣や考え方であると感じた。やはり文化が違えば、そういった考え方も違うので、異文化間での交流というのは難しいこともたくさんあると思う。しかしそこで大切になってくるのが“コミュニケーション”であると考え。そのコミュニケーションというのは、自分の考えや意思、主張を他の人に“言葉で”伝える1種の道具であると思う。それゆえに、異文化交流では、自分以外の文化を尊重し、コミュニケーションという道具を用いてしっかり意思疎通することが重要であると、私はこのクラスを通して感じた。

2 授業について

私は人と話をするのが特に苦手だったので、留学生と1対1で会話するのはとても難しいことだった。しかしその相手がアフナンさんのようなすごく接しやすい人だったので大分楽ではありました。このクラスは私のようないわゆる「コミュ障」の人たちにとっては、難しい一方でコミュニケーション能力の向上になるので、その点はとても良いと思う。

私たちのグループではなかったのですが、日本人どうしでのインタビューはなるべく無くしたほうが良いと考える。なぜなら同じ日本人どうしで話し合いをしても異文化に触れることができず、他者の文化を発見することはできないと思う。だからこのクラスでの日本人どうしのインタビューには反対する。

このクラスを通して改めてコミュニケーションの難しさを感じた一方で、他者の文化を発見することの楽しさを感じたり、これからもっと頑張ろうというやる気が出てきたりもした。今はこの授業をとって良かったと思っている。